



## 今なぜ「平和都市宣言」が必要なのでしょう

私たちはコロナ禍を経験し、当たり前だと思っていた日常が、実は当たり前ではなかったことに気づきました。平穏な暮らしこそが、当たり前の社会の土台であることを改めて実感した方も多いのではないのでしょうか。

しかし、世界に目を向けると、戦争や緊張は絶えず、平穏とは程遠い状況です。近年はロシアによるウクライナ侵攻や中東での衝突、南シナ海をめぐる動きなど、日本も無関係ではられない状況が続いています。

こうした中、市では、身近な暮らしに平和が根付くことが、やがて世界の平和につながるという考えのもと、3年前から平和への取組みを進めてきました。また、価値観の異なる「他者」を受け入れ、多様性を尊重することが平和の基盤であると考え、ダイバーシティの推進にも力を入れています。

今年は終戦80年。戦争を直接体験した世代が減る中で、平和について改めて考えるきっかけにさせていただくため、市は「飛騨市平和都市宣言」を策定しました。



2024年8月長崎原爆資料館見学の様子



## 平和を自分ごととして考えるため市民主体で策定

全国の約8割の自治体に平和都市宣言はありますが、市では、こうした宣言を単につくるだけでなく、市民の皆さんが、平和への理解を深め、それぞれ何らかの行動につなげていただくことが必要だと考えました。

そのためには市民が主体となって宣言をつくるプロセスが重要だと考え、宣言策定を担う「飛騨市平和都市宣言検討委員会」は公募などで選ばれた一般市民や高校生、有識者など14人で構成し、委員長には平和学などが専門である東北学院大学法学部の池田丈佑教授に就任いただきました。宣言文の策定は、アンケートの結果をもとに市民の思いやキーワードを集約。検討委員の皆さんが平和学習を重ねながら文言を慎重に選び、宣言文を完成させ、市に提出しました。

# 飛騨市平和都市宣言

わたくしたちは、うつくしい山河につつまれて、  
豊かな歴史と伝統を誇る飛騨市民です。  
わたくしたちは、命の重さと地球の尊さ、  
そしてそれを奪う愚かさを知っています。  
しかし世界はなお、暴力と、無理解と、不平等から  
自由になれていません。

わたくしたちは、平和がかけがえのないものであることを確信し、  
あんきで思いやりのあるまちを目指して、  
次のことに取り組みます。

美しい自然と豊かな歴史、伝統を守り続けます。

お互いの価値観と多様な生き方を尊重します。

誰もが安心して夢に挑めるまちを創ります。

現実を直視し、常に関心を持ち続けます。

戦争のない、平和な世界を望みます。

## 【宣言策定の基本的な考え方】

平和都市宣言の策定にあたっては、次の3  
点に重点を置きながら検討を行いました。

- ①いかに多くの市民の思いを反映するか  
(市民で作り上げる)
- ②策定で終わりではなく、宣言をどう活か  
すか(平和を考える契機とする)
- ③飛騨市のアイデンティティの充実および  
シビック・プライドの醸成

大人から子どもまで幅広い年代が宣言の内  
容を理解できるよう、極端に難しい言葉は  
使わず、堅苦しくない文面を考慮しました。  
宣言単独で用いるだけでなく、市民憲章や  
飛騨市ダイバーシティ宣言と合わせて三位  
一体で理解・活用することが期待されます。



## 宣言策定は平和の第一歩。平和を自分ごと にして、これから行動しませんか



飛騨市平和都市宣言検討委員会  
委員長  
東北学院大学法学部  
池田 丈佑 教授

平和都市宣言ができました。委員や市民の皆さん  
の気持ちと、経験と、知性と、声を集めたもので  
す。まずはご覧になってください。

皆さんにとって「平和」とは何ですか。戦後80年を  
迎える今、再び平和を考える機会が来ています。  
ご覧になった後、一度お考えになってみてくださ  
い。戦争や貧困の中で、平和を考える余裕はあり  
ません。

宣言の第一文は、市民憲章と同じにしました。憲  
章にも、大事なことがたくさん書いてあるからで  
す。ダイバーシティ宣言も同じです。今回、平和都  
市宣言を加えた3つを1組として考えることにし  
ました。これらが、飛騨市の「価値づくり」と「まち  
づくり」の土台になればと考えています。

これから、宣言は実践の段階に入ります。引き続  
き、お知恵を貸してください。

令和6年3月5日(火)から6月7日(金)の期間中、「平和  
に対する意見募集」として実施したアンケートでは、10代の皆  
さんを中心に740件の回答が寄せられました。

質問① あなたにとって平和とはなんですか？  
また、平和と感じる時はどんな時ですか？

### 【主な意見】

- ・争いと暴力の根絶(戦争・武力による争いや犯罪がない、安  
全・安心して生活できる)
- ・基本的な生活の保障(衣食住の確保、医療や教育が平等に受  
けられる)
- ・差別や偏見のない社会(人種・宗教・性差別がない、互いを  
尊重し合える)
- ・自由と尊厳の確保(自由に意見を言える、好きなことができる、  
尊厳が守られる)
- ・協力と助け合い(互いに助け合い協力できる社会の実現、皆  
が仲良く過ごせる)

質問② 平和を実現するためには、どのような考えや  
取り組みが大切だと思いますか？

### 【主な意見】

- ・互いを思いやる心(家族・学校・職場などにおいて、相手の  
ことを考え思いやる)
- ・多様性の理解(多様性や文化を理解し、受け入れること。学  
校での教育も大切)
- ・選挙への参加(意見の反映のため投票し、平和で公正な社会  
のための政策を支持)

# 飛騨市平和都市宣言検討委員を務めたおふたりにうかがいました



住民代表委員  
(元 古川町区長会長)  
竹原敏弘さん

## 宣言が平和を考え続ける きっかけになれば

■作成の過程で大事にされたことは  
池田先生が何を言っても否定されず、それをどう宣言に取り込んでいこうかと真剣に考えてみえることが分かり、私はとにかく本音でしゃべることを考えていました。

### ■議論が進む中で感じたことは

とても意見を出しやすい進行をしていただき、委員からたくさん意見が出ましたが「これをどうまとめるんだ？」と不安はありました。また、当初の案にあった最後の一文「二度と戦争はしません」を入れるかどうかの議論が大変で、「言い切りたいけど言い切れんやろう」「言い切れないことは分かっているけど言い切りたいんだ」とそれぞれの思いが交錯して議論が白熱しました。

### ■ご自身の中で変化したことは

私は当初「現実にある戦争を前にして、宣言に何の意味があるのか」と懐疑的でした。ただ、議論を重ねる中で「平和とは、平和について考え続ける過程の中にある」という言葉を見つけてからは「平和について考え続けるきっかけとしてこの宣言が利用されれば、作った意味があるな」と思うようになりました。

### ■この経験をどう生かしていきたいですか

この宣言に関連したイベントがあれば積極的に参加して盛り上げていきたいですし、そのきっかけにもしていきたいです。この町のもつ優しさを継続していけたら。



一般公募委員  
(吉城高校卒業生・学生)  
岩塚紗都さん

## 日常の暮らしの中にある 平和を大切にしたい

■どのような思いで参加しましたか  
平和への関心は持っていましたが、なかなか行動にまでは踏み切れなかった中、友人に誘われて参加しました。市に少しでも貢献できたらという思いもありました。

### ■活動の中で大切にしたことは

委員の皆さんがいろんな意見を提案してくださり、すごく楽しかった反面、1つの文章にまとめるのがすごく難しかったです。その中で私は1人ひとりの意見の共通点などを見つけたりして、議論するうえで意見がもれてしまうことのないように心がけました。

### ■関わる過程で気づきや変化などはありましたか

戦争とか大きなものだけでなく、朝起きてから寝るまでの毎日の生活の中で、人との関わりや衣食住などすべてのことを平和だととらえるようになりました。

市民の方や小中学生が寄せてくれた意見に「人に対して思いやりをもつ」とか「あいさつをする」とか、そういったささいなことがいっぱい書かれているのを読んで、平和とはそういうものだなと改めて考えさせられました。

### ■この経験を今後どう生かしたいですか

平和について知識を得て真剣に考えるようになりました。衣食住が満たされていたり、しゃべってくれる友人や家族がいることがありがたいですし、そういう平和を求めていきたいです。

## 「飛騨市平和推進委員会」 委員募集!

宣言の完成を受け、検討委員会は発展的に解散しました。そして、宣言文に基づいて市民の平和意識を高める取り組みを進めるため、新たな組織として「飛騨市平和推進委員会」を設立します。今後、これまでの平和への取り組みに加え、市民が主体となって平和に関する具体的な政策・行動計画を立案し、予算化を目指します。また、多様性に寛容な社会づくりとして「ダイバーシティ社会」の進展もふまえながら実践的な活動も行う予定です。

委員として参加をご希望の方は、お申し込みください。



申込フォーム

## 「平和」をテーマに短歌、絵画を募集

市では、平和をテーマとした短歌コンテストと絵画コンテストを開催しています。短歌コンテストは市民もしくは市内の企業・学校に通勤通学している方、絵画コンテストは市内の小中学生が対象です。

応募期間は8月29日(金)までです。  
詳しくは、市ホームページをご確認ください。



(短歌)



(絵画)

7/31

## 市長が長崎での平和学習に取り組む中学生へ 激励のこぼを贈りました

長崎市での平和学習の催しである「長崎青少年ピースフォーラム」へ市内中学生8名を派遣することに伴って、市長から参加生徒に激励のこぼを贈りました。参加する生徒からは、「長崎で原爆や戦争を学べる貴重な機会なので、しっかり学んで自分だけでなく周りの人にも平和を伝えたい」と意気込みを語りました。